

19 日本国特許庁 (JP)

11 実用新案出願公開

12 公開実用新案公報 (U)

昭59—34771

51 Int. Cl.<sup>3</sup>

識別記号

庁内整理番号

43 公開 昭和59年(1984)3月3日

A 47 L 23 20

6575—3B

D 06 F 57 00

1 0 4

6613—4L

審査請求 未請求

(全 頁)

54 靴等の吊り下げ具

東京都世田谷区梅丘1—20—4

71 出 願 人 塩瀬久子

21 実 願 昭57—130403

東京都世田谷区梅丘1—20—4

22 出 願 昭57(1982)8月28日

74 代 理 人 弁理士 三浦光康

72 考 案 者 塩瀬久子

## 明 細 書

### 1. 考案の名称

靴等の吊り下げ具

### 2. 実用新案登録請求の範囲

1) 針金を略U字状に折り曲げたものを側面より見てレ字状となるように折り曲げ形成された少なくとも1個以上の吊り下げ具本体と、この吊り下げ具本体を構成する針金の両先端部を曲げて形成した吊り下げ部とからなることを特徴とする靴等の吊り下げ具。

2) ビニールパイプで覆われた針金を用いて吊り下げ具本体が形成されていることを特徴とする実用新案登録請求の範囲第1項記載の靴等の吊り下げ具。

3) 吊り下げ部は物干し竿に係合させることのできるフック状に形成されていることを特徴とする実用新案登録請求の範囲第1項または第2項記載の靴等の吊り下げ具。

4) 吊り下げ部は吊り下げフック等に係止できるリング形状に形成されていることを特徴とする

実用新案登録請求の範囲第 1 項または第 2 項記載の靴等の吊り下げ具。

5) 吊り下げ具本体は背中合せになるように配置されていることを特徴とする実用新案登録請求の範囲第 1 項ないし第 4 項いずれかに記載の靴等の吊り下げ具。

### 3. 考案の詳細な説明

本考案は洗濯した運動靴を乾すために吊り下げたり、あるいはスリッパや靴の収納に使用することのできる靴等の吊り下げ具に関する。

従来、洗濯した運動靴を乾す場合、ベランダ等の壁面に傾斜状態で立てかけて行っているが、床面等のごみが風等によつて運動靴に付着しやすく汚れやすいという欠点があるとともに床面等を使用するので、他の作業のじやまになりやすいという欠点があつた。またスリッパの不使用時の収納にスリッパ立てが用いられているが、これも床面に支持される台にスリッパを支持させる支持部が突出されているので、床面のスペースを取り、狭い玄関等ではじやまになるという欠点があ

つた。

本考案は以上のような従来の欠点に鑑み、洗濯した運動靴を洗濯物と同様に物干し竿に吊り下げることができるとともにスリッパ等も床面積を取ることなく支持することのできる、構成が簡単で安価な靴等の吊り下げ具を得るにある。

以下、図面に示す実施例により、本考案を詳細に説明する。

第1図ないし第5図の実施例において、1は洗濯した運動靴等を吊り下げる靴等の吊り下げ具で、この靴等の吊り下げ具1はビニールで覆った針金を略U字状に折り曲げた後、側面より見てレ字状となるように折り曲げるとともに下端部を拡開状にして吊り下げ具本体2を形成する。しかる後、針金の両先端部をねじつて一体にした後、弧状に折り曲げてフック状の吊り下げ部3を形成する。

上記構成にあつては第5図に示すように洗濯した運動靴4を吊り下げ具本体2の突出部2aに係止させた後、吊り下げ部3を物干し竿5に係止させることにより、通常のハンガーを用いた洗濯物

と同様に干すことができる。

次に第 6 図ないし第 15 図に示す本考案の異なる実施例につき説明する。なお、これらの実施例の説明に当つて、前記本考案の実施例と同一部分には同一符号を付して重複する説明を省略する。

第 6 図ないし第 9 図の実施例において、前記本考案の実施例と主に異なる点は吊り下げ部 3 A をリング状に形成した点で、このように構成することにより、リング状の吊り下げ部 3 A を玄関等の壁面に取り付けたビス、釘、止め具等に係止させることによりスリッパの吊り下げ具 1 A として使用することができる。なお、吊り下げ具本体 2 や吊り下げ部 3 A は塗料を塗布した針金を用いてもよい。また針金は金属材で形成したもの以外の合成樹脂材等で形成したものであつてもよい。さらに吊り下げ部 3 A の基部に立体的なスリッパ、動物、花等のアクセサリーを取付けてもよい。

第 10 図および第 11 図の実施例において、前記本考案の実施例と主に異なる点は 2 個の吊り下げ具本体 2、2 を背中合せに配置するとともに、これ

らの吊り下げ具本体 2、2 を構成する両先端部の針金をリング状に接続して吊り下げ部 3 B を形成した点で、このように構成することにより一足分の運動靴等を吊り下げて干すことのできる吊り下げ具 1 B にできる。

第12図ないし第15図の実施例において、前記第1図ないし第4図の実施例と主に異なる点は吊り下げ具本体 2、2 と一体に形成された半円弧状の吊り下げ部 3、3 を略 U 字状になるように接続した点で、このように構成することにより、第14図に示すように一足分の靴を吊り下げることができる吊り下げ具 1 C にできる。このため、第15図に示すように一足分の靴を支持させた後、収納袋 6 で覆うことにより、ゴルフ靴等の持ち運びに使用することもできる。

以上の説明から明らかなように、本考案にあつては次に列挙する効果がある。

(1) 洗濯した運動靴等をハンガーを用いて洗濯物を干すのと同じように物干し竿等に吊り下げて干すことができる。したがって、干す場所に困ら

ず、かつ干している間にごみ等が付着することが少なく、効率よく干すことができる。

(2) 針金を用いて構成しているので、構造が簡単で安価にできる。

(3) 針金で形成したハンガーの横バーの略中央部を折り曲げ両端部を内側へ曲げて第1図ないし第4図に示すものが形成できるので、従来のハンガーの再利用も図ることができる。

(4) 吊り下げ部を壁面に設けた止め具に係止させることによりスリッパ等を支持させることができる。したがって、従来の床面上に置くスリッパ立てのように床面積を取らず、狭い玄関にでも使用することができる。

(5) なお、吊り下げ具本体の先端部に乾燥剤や新聞紙を取付けた後、靴等を吊り下げることにより、効率よく乾燥させることができる。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図ないし第4図は本考案の一実施例を示す正面図、側面図、平面図、底面図、第5図は本考案の使用状態の説明図、第6図ないし第9図、第

10図および第11図、第12図ないし第15図はそれぞれ本考案の異なる実施例を示す説明図である。

1、1 A、1 B…靴等の吊り下げ具、

2…吊り下げ具本体、

3、3 A、3 B…吊り下げ部、

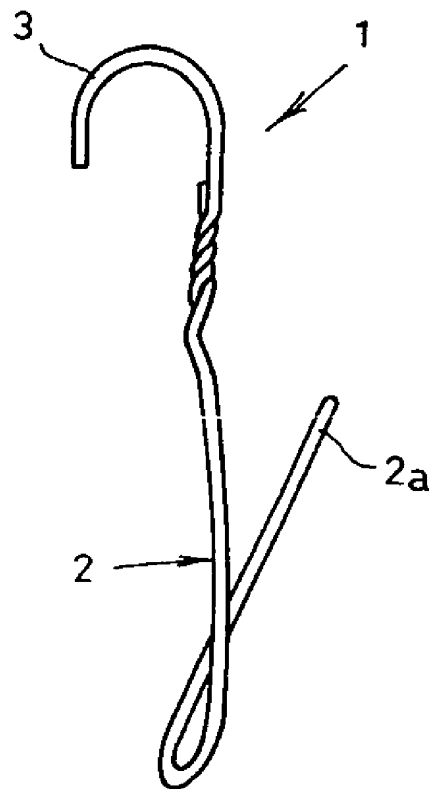
4…運動靴、                    2 a…突出部、

5…物干し竿、                  6…収納袋。

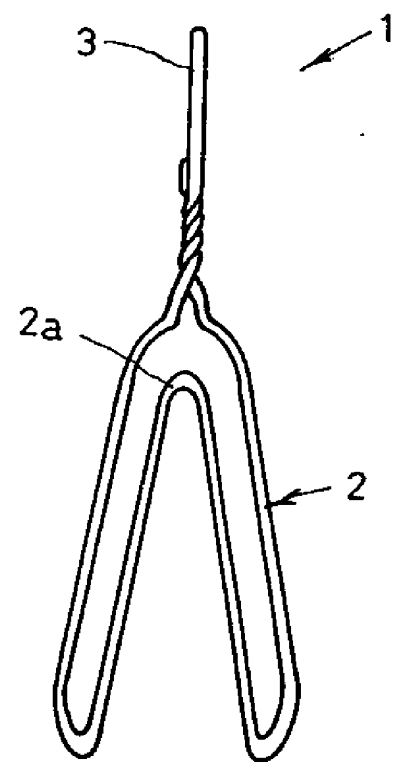
実用新案登録出願人    塩    瀬    久    子



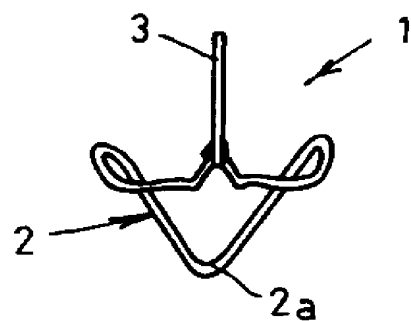
第 1 図



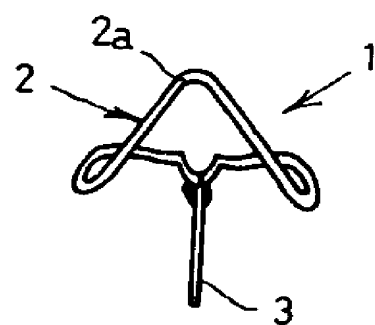
第 2 図



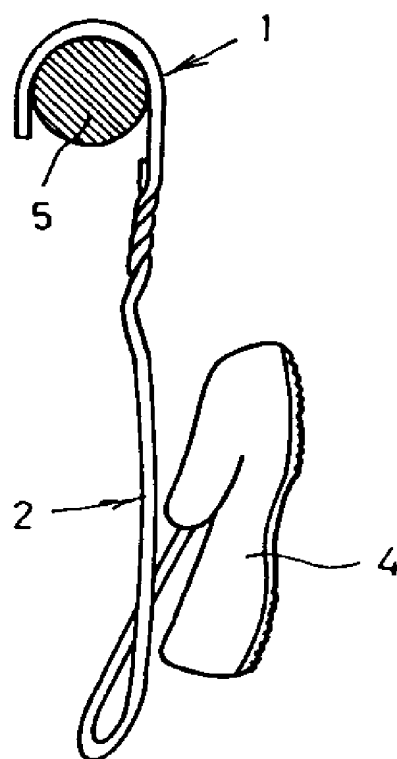
第 3 图



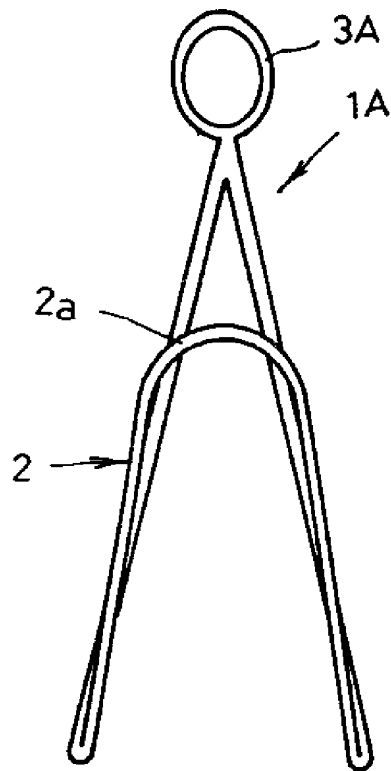
第 4 图



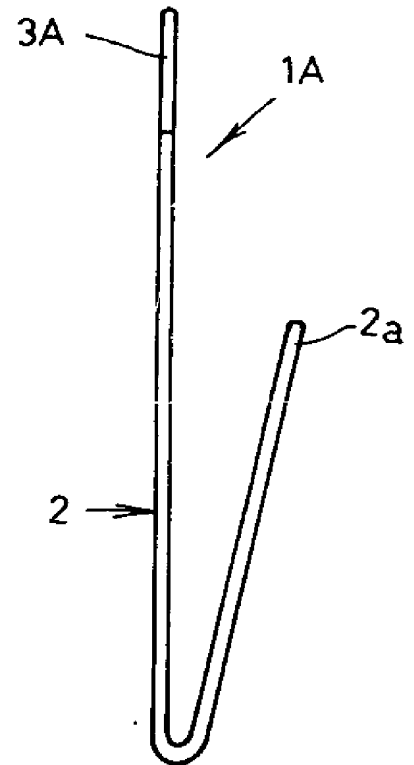
第 5 图



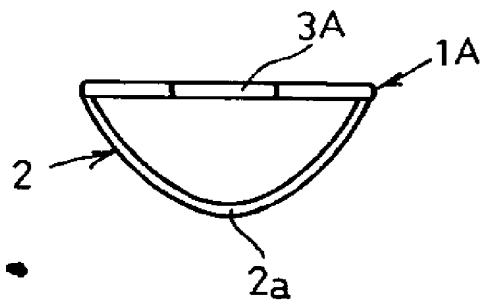
第 6 図



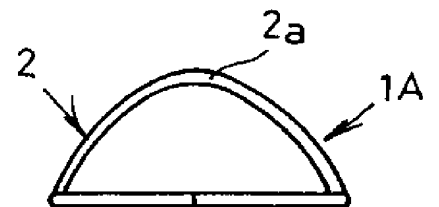
第 7 図



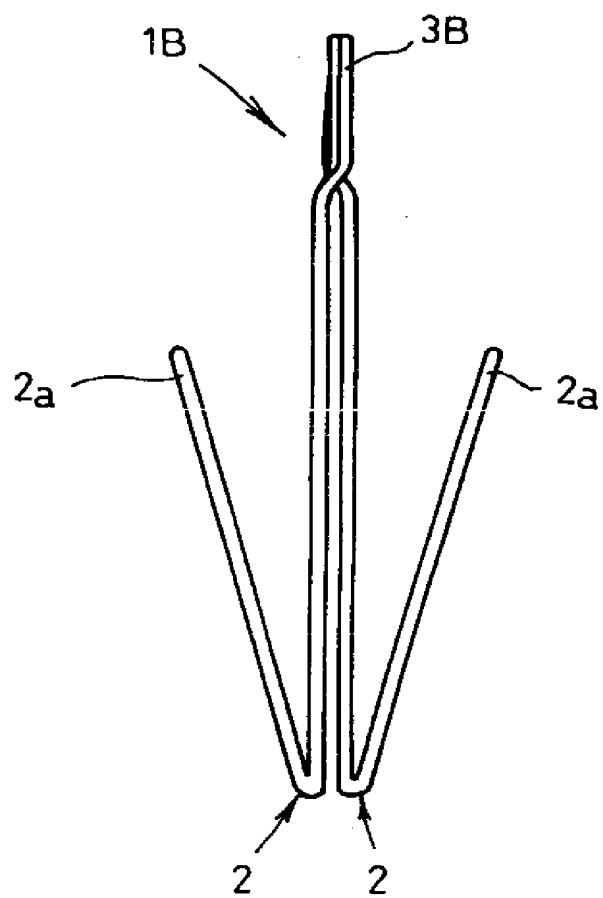
第 8 図



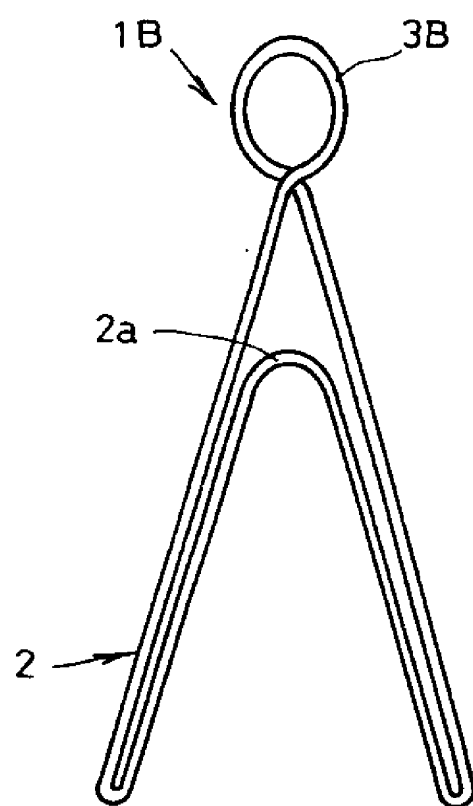
第 9 図



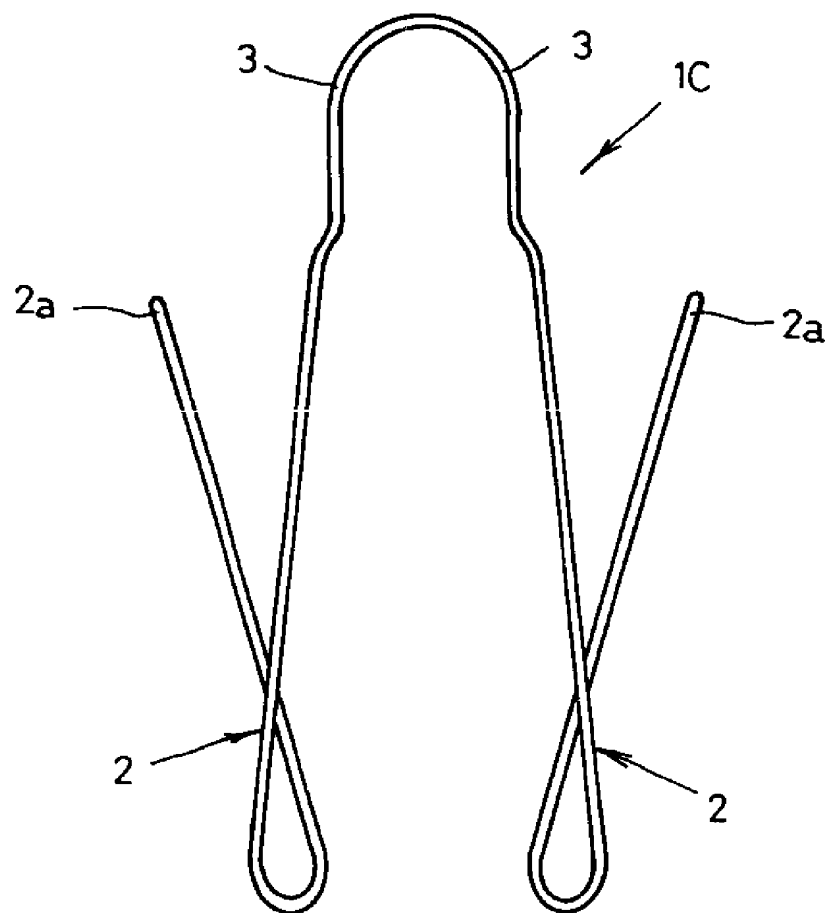
第 10 図



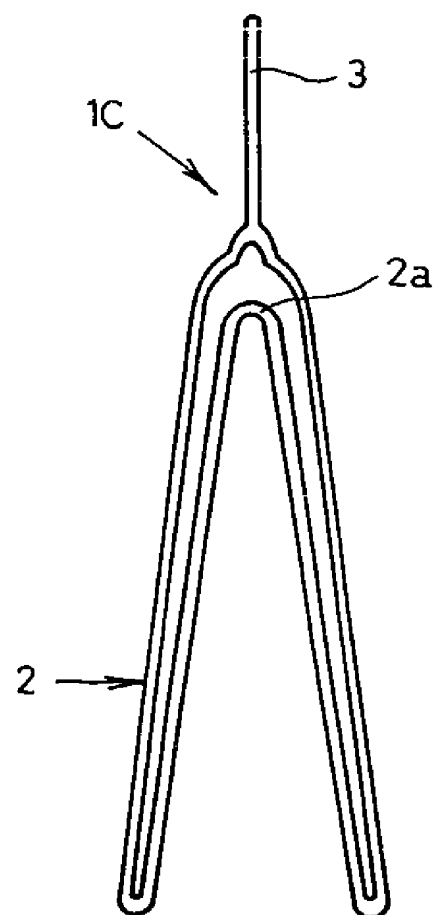
第 11 図



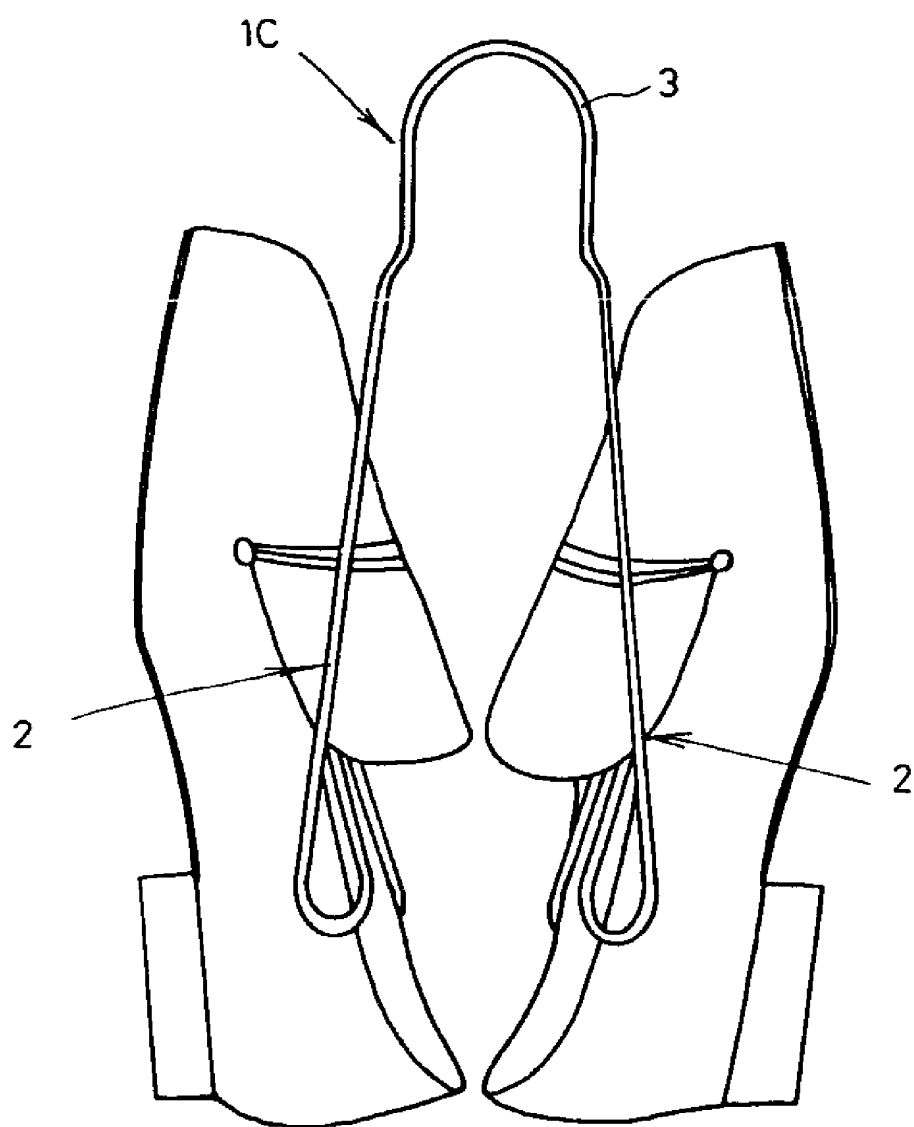
第 12 図



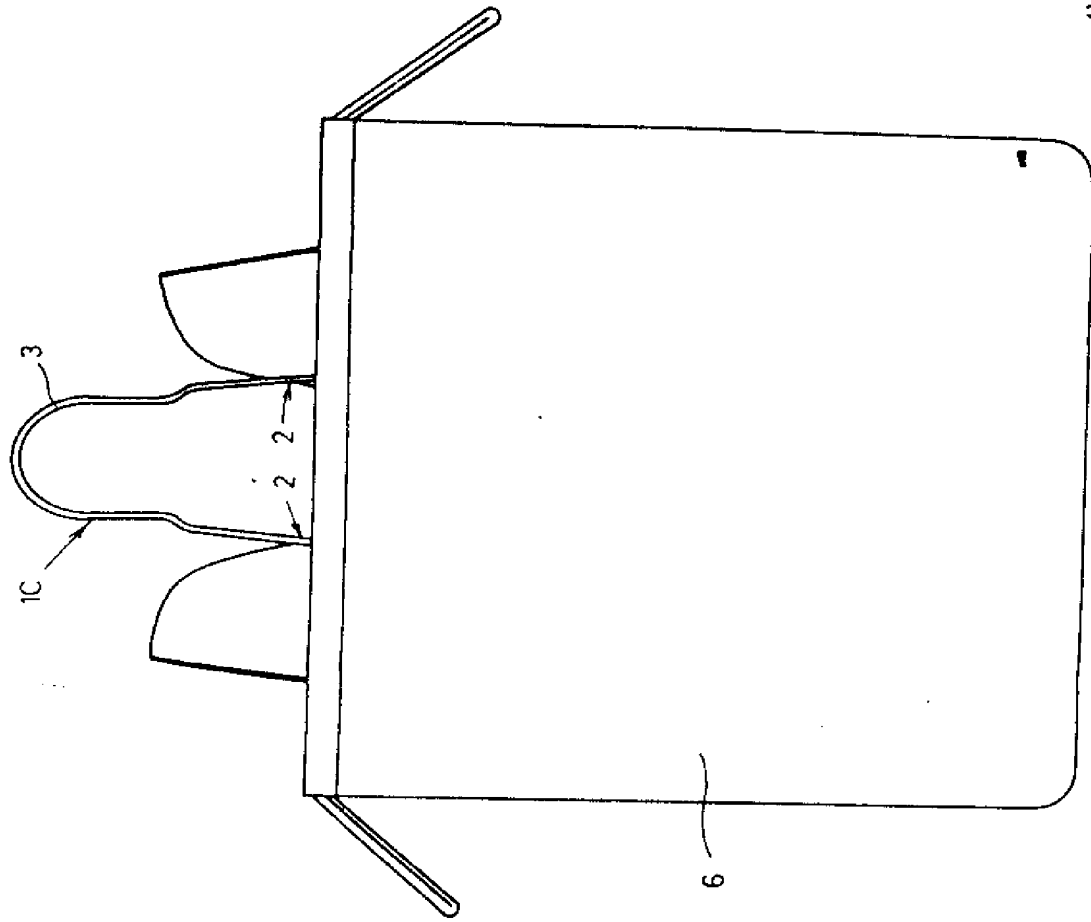
第 13 図



第 14 圖



第 15 図



629